

平成23年4月21日
国土交通省福井河川国道事務所 3F
第2会議室 13時30分～

豪雪時における適切な道路管理のあり方検討会議

第3回会議 議事次第

1. 開会の挨拶
2. 議 題
 - ・第2回会議の結果報告
 - ・課題に対する方策
 - ・まとめ
3. 閉会の挨拶

「豪雪時における適切な道路管理のあり方検討会議」

委員構成

委員	福原 輝幸	福井大学大学院工学研究科	教授
委員	川本 義海	福井大学大学院工学研究科	准教授
委員	岩下 友也	近畿地方整備局	福井河川国道事務所長
委員	林 久高	福井地方气象台	技術課長
委員	竹内 成和	福井県土木部	道路保全課長
委員	岸本 功	中日本高速道路(株)金沢支社	敦賀保全・サービスセンター所長

(敬称略)

豪雪時における適切な道路管理のあり方検討会議 — 第2回議事要旨 —

日時: 平成23年3月29日(火)

13:30~15:30

場所: 福井河川国道事務所
3F 第2会議室



3

- ・ 登坂道路を、どの程度の路面状況ならノーマルタイヤで登ることができるか、あるいはスタッドレスタイヤで登ることができるか、さらには空荷のトラック車両が登ることができるのか、これらの事象をデータ集積、モデル化し検証することで、実際の規制などの判断に活かせるかどうか。
- ・ 現行の配布物等による広報や啓発活動は効果が不明で、またドライバーの意識にも県内外の地域間で差異があるため、こういった状況になると通行できなくなるのか具体的な“ものさし”を示すことが必要である。
- ・ ドライバーに、道路表示板等により路面状況や交通情報をリアルタイムに伝えることが必要である。定期的な情報発信だけではなく、平常時とそうでない時とで変えるなど、状況に応じた対応が必要である。また、道路表示板による警報や、注意喚起は必ずしも情報発信者側の想定通りにドライバー側へ伝わっていないのではないのか。

4

- ・「雪みち情報ネットふくい」や「ユキイロ.com」など、インターネットを利用したオンタイムの情報配信は、アクセス数も多く有用に利用されていると思われる。これらのネット情報を共有すると共に、情報提供が同一画面・操作できるようなサービスも望まれる。
- ・拡幅除雪による排雪場所の確保など、事前除雪等の対策を講じておく必要がある。
- ・除雪車両は、小回りの効く車両と圧雪に強い車両など、機種によって特徴が異なる。雪質や降雪状態により車種の組合せが変わる。除雪する管轄が異なっても、車両を融通することにより、管轄を超えた応援体制を構築する事も有効である。

5

- ・H13年、H18年、H23年と5年毎の豪雪で除雪体制等の見直しに迫られている。経験者の異動により、経験が活かしきれない面もある。
- ・H13年、H18年、H23年と同じ区間で発生している通行止めに対し、北陸道と国道8号など幹線が途絶しないよう道路利用者の相互乗入を検討する際には、てい団除雪や交互の通行止め（通行止めのタイミング、順番、場所を決めて除雪）を実施するなど、色々なパターンを想定したシナリオをつくり、シミュレーションを実施しておくことが、実践に役立つ。まずやってみることが大事。
- ・豪雪時に停滞する地点が決まっていて、チェーン装着でも登ることができない場合、次の対策として融雪等のハード対策、除雪車の配置、さらには、道路縦断勾配の変更など、対応策は種々の選択肢があり、ひとつの対策にこだわらず、2重3重の対策を準備する必要がある。

6

- ・映像や写真などを媒体に豪雪アーカイブとしてとりまとめてはどうか。今後の対策検討の際の有用な資料となる。
- ・豪雪による渋滞・滞留の問題は、管理者だけの対応では全てカバーできない。運転者側にも装備準備等を踏まえた認識を持っていただけるよう、アーカイブ等でとりまとめた資料を活かしていくべき。
- ・各機関の気象データ情報等を共有化することで、より迅速・的確な対応を行っていきける。
- ・本日の議論を踏まえ、対策を取りまとめたものを、次回の会議で論議する。

7

課題と対策案

8

課題 1

雪害・雪氷体制について

- ・大雪になるかどうか微妙な場合、早い段階での体制判断の必要性について
- ・こういった状況になると通行できなくなるのか具体的な“ものさし”を示す必要がある

対策 1

1) 中長期対策(来シーズン以降)

- ・どの程度の路面勾配まで、あるいは、どの程度の路面状況ならノーマルタイヤで登坂可能か。スタッドレスタイヤの場合は登坂可能か。さらには、空荷のトラック車両が登坂可能かなど、これらのデータ集積とモデル化、考察を行うことにより、いつ・どこで通行規制をかけるかの判断材料に活用出来る。
(今後の研究課題)

9

課題 2

情報の収集と提供

- ・停滞しているドライバーに情報が届いていないのでは。当時、停滞した車両のドライバーからの情報を収集できないか。(アンケート結果あり)
- ・ドライバーが直感的に理解できるような情報の提供方法について
- ・道路表示板による警報や注意喚起は情報発信者側の想定通りにドライバーに伝わっていない。

10

対策 2

1) 短期対策(来シーズン)

- ・ 情報収集機器の増設 (CCTV)
- ・ シーズン前にトラック協会等、業界団体を交えた会議の場で冬期装備等に関する要請
- ・ 広報媒体 (新聞等) を活用したPR
- ・ シーズン前にリーフレットを業界団体、道の駅等への配布
- ・ HP「ユキイロ.com」「福井・滋賀北部冬の雪みち情報」「雪道情報福井」の更なるPR強化と提供情報内容の見直し (リアルタイムな情報を提供) を実施 …『資料①』
- ・ 県外、関西中京圏への情報提供の実施 …『資料②』

11

2) 中長期対策(来シーズン以降)

停滞車両等への情報提供として

- ・ 国道8号は要所に路側放送設備を計画 …『資料③』

情報の収集強化として

- ・ 情報収集機器の増設・・・CCTVカメラ等の増設
…『資料④』

12

課題 3

関係機関の情報共有

- ・各機関が保有する情報等の一層の共有化が必要

対策 3

1) 短期対策(来シーズン)

- ・冬期道路情報連絡室では、構成メンバーが迅速に参集出来るような仕組みを導入することで、初動段階より詳細な情報を共有し、より迅速、的確な判断が可能となる。
- ・これに加え、また、県において災害連絡室が設置され、体制が強化される場合には、関係機関が連絡員を派遣し、道路に関する連携の強化を図っていく必要がある。
- ・道路管理者間等の連携を強化すると共に、迅速な対応を行うため、責任者間にホットラインの設置が必要である。

13

課題 4

資機材について

対策 4

1) 短期対策(来シーズン)

- ・走行不可能車両の救出体制強化 …『資料⑤』
 - ・ ・ ・ 救出用トラクタショベルの増車と前線基地の増設
- ・除雪前線基地において、スタック車両脱出のための簡易チェーンや規格が異なる牽引ロープの用意 …『資料⑥』

2) 中長期対策(来シーズン以降)

- ・国道8号では降積雪で立ち往生した車両周辺の除雪のため、小回りのきく除雪車両の導入を計画 …『資料⑦』
- ・立ち往生した車両を迅速に排除出来るよう、要所に除雪機械を配置する除雪前線基地を計画 …『資料⑧』

14

課題 5

除雪体制について

- ・ ノーマルタイヤ車による立ち往生が続出
高速道路では初冬期に警察と連携して賤ヶ岳SA・木之本ICと南条SAでタイヤのチェックを実施、装着率が9割以上になれば終了
- ・ 雪質に応じた除雪、除雪方式の検討
- ・ H13年、H18年、H23年と5年毎の豪雪で除雪体制の見直しに迫られている。また、経験者のノウハウの継承が必要
- ・ 道路管理者間で通行止めのタイミング調整
チェーン装着規制や通行止めに関する関係機関相互の連携
(H23. 2. 25の通達：降雪時における直轄国道に管理について)

15

対策 5

1) 短期対策(来シーズン)

- ・ 既存の道路用地等を活用したチェーン着脱場の確保
- ・ 高速道路は引き続き初冬期に警察と連携してSA(南条, 賤ヶ岳)やIC(木之本)でのタイヤチェックを実施
…『資料⑨』
- ・ 拡幅除雪による排雪場所の確保などの事前除雪が必要
- ・ 除雪する管轄が異なっても、車両を融通することにより、管轄を超えた応援体制を構築するための具体的な検討を進める。 …『資料⑩』
- ・ 冬期道路情報連絡室で、道路利用者の北陸道と国道8号の相互乗り入れについて、通行止めのタイミング、順番、場所を決めての除雪、梯団除雪など色々なパターンを想定したシナリオをつくり、シミュレーション(図上訓練)を実施する。また、継続的に取り組んでいく
…『資料⑪』

16

2) 中長期対策(来シーズン以降)

- ・ 国道8号では要所にチェーン着脱場の整備を計画、タイヤチェック実施に向け警察と連携して調整を進める。
…『資料⑫』
- ・ 豪雪時に停滞する地点があって、チェーン装着でも登ることができない場合、次の対策として消雪設備等の融雪対策、除雪車の配置、さらには、道路縦断勾配の変更など、対応策は種々の選択肢がある。適用可能な方策を検討する必要がある。 …『資料⑬』

17

課題 6

その他

- ・ より適切・的確な気象予測が出来ないか

国交省は気象協会、NEXCOはウエザーニューズ、県は気象台とウエザーニューズを参考にしており、互いの気象データを共有することで予測精度の向上が図れないか

18

対策 6

1) 短期対策(来シーズン)

- ・アーカイブ的な資料を作成して、今後の検討資料として、またドライバーへの冬期通行への認識を深める資料として活用する。
- ・互いの気象データを共有することで、予測の効率化や除雪体制・除雪作業の判断材料として活用する。

19

検討会議のまとめ

H23年1月末に発生した大雪により、北陸高速道路や国道8号を含め、嶺北と嶺南を結ぶ幹線道路の通行が途絶し、経済・社会に広範囲な影響を与えた。また、路上では、長時間車両が停滞する事態が発生した。

このような事態を重く受け止め、福井河川国道事務所、福井県、NEXCOの各道路管理者が連携して、福井大学の福原教授を座長に、取り組むべき様々な課題とその方策を議論する「豪雪時における適切な道路管理のあり方検討会議」を3回開催した。

今後は、会議でまとめられた対策の方向性をもとに、必要に応じて学識経験者の意見を聞きながら、各当事者が密接に連携して具体的な検討を行い、着実に実施に移していくことが必要である。

<以上>

20